

令和3年 第12回ダイバーシティ推進ランチョンセミナーを終えて

2021年9月16日～20日、日本植物学会第85回大会（八王子大会）がオンラインで開催されました。ダイバーシティ推進セミナーは「アンコンシャス・バイアス（無意識のバイアス）」をテーマとして19日（日）に行われました。セミナーは大会参加に関わらず全会員が参加できるzoomウェビナー形式としました。

セミナーでははじめに寺島一郎学会会長（東京大学大学院理学研究科・教授）からご挨拶をいただきました。一昨年度までの男女共同参画推進セミナーでは女性活躍推進に関するセミナーが主だったのに対し、ダイバーシティ推進セミナーでは多様なテーマを取り上げることができるため、幅広い世代の会員を対象として啓発や学びを提供できる点について強調されました。続いて井川智子ダイバーシティ推進委員会委員長（千葉大学大学院園芸学研究院・准教授）からは、本年度「アンコンシャス・バイアス（UB）」を取り上げた経緯について紹介がありました。昨年度のセミナー後アンケートではUBをテーマに希望する回答が大幅に増加したこと、またこのワードを近年耳にする機会が増え社会的にも関心が高まっている点について触れました。

続いて岩瀬哲氏（理化学研究所 CSRS・上級研究員）及び大谷美沙都氏（東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授）の司会のもと、講演とパネルディスカッションが進行しました。講演では、現在ハワイにご在住のマチ・ディルワース先生（元沖縄科学技術大学院大学・副学長）から「無意識のバイアス What It Is, and How It Affects Our Decision Making Process」をご発表いただきました。導入部ではUBのパターンやUBについて考える意義について解説していただき、続いてアカデミックポストの選考や学会、業績、競争的予算獲得におけるUBの現れ方についてリサーチデータをもとに具体例をご紹介下さいました。最後に、UBによるネガティブな影響をいかに抑えるか、について個人および組織レベルで行えるアクションについてお示し下さいました。

パネルディスカッションでは寺島一郎氏、森田（寺尾）美代氏（基礎生物学研究所・教授）、別所・上原奏子氏（東北大学大学院生命科学研究所・助教）、柿嶋聡氏（国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター・特定非常勤研究員）にパネリストとしてご登壇いただきました。若手からシニア世代、フィールドやラボワーク環境など、多様なバックグラウンドを持つパネリストの方々からは「宿泊を伴うフィールド調査では女性研究者に参加を打診することを躊躇してしまう」、「技術補佐員を雇用する際に女性を選びがち」、「研究者である自分と、

第12回日本植物学会ダイバーシティ推進セミナー
知って活かそう

アンコンシャス・バイアス

2021.9/19 (日)
12:15-13:30
E会場
(オンライン同時中継)

日本植物学会会長 挨拶
寺島 一郎 (東京大学大学院理学研究科・教授)

講演「無意識のバイアス: What It Is, and How It Affects Our Decision Making Process」
マチ・ディルワース (元沖縄科学技術大学院大学・副学長)

井川 智子 (千葉大学大学院園芸学研究院・准教授)

パネルディスカッション
森田 (寺尾) 美代 (基礎生物学研究所・教授)
別所・上原 奏子 (東北大学大学院生命科学研究所・助教)
柿嶋 聡 (国立科学博物館分子生物多様性研究資料センター・特定非常勤研究員)

司会 岩瀬 哲 (理化学研究所 CSRS・上級研究員)
大谷 美沙都 (東京大学大学院新領域創成科学研究科・准教授)

日本植物学会第85回大会に参加登録された方は
どなたでも本セミナーに自由に参加できます。

BSJ 日本植物学会
SDG DEVELOPMENT GOALS

子どもの他の保護者と話が合うのだろうか?とってしまう」など、ご自身が「UBではないか?」と感じられる事例についてもお話いただきました。

UBを払拭するための共通する明快な策はありません。ディルワース先生もご講演で紹介されたように、UBは本来人間が持つ生存のための脳の特性でもあり、全てがネガティブに影響するわけでもありません。ですが、このようなセミナーを行うなどして定期的にUBを再認識すること、できるアクションを起こし公平性を保つ意識を持つことが大切だ、とパネルディスカッションを通じて発信されました。



本年度セミナーで初めて無意識バイアスを取りあげました。重要な問題と認識しつつも「どこから手を付ければ良いの?」と戸惑いもありましたが、司会を務めて下さった岩瀬さん、大谷さんをはじめ委員の積極的な活動により、本セミナーの開催に至ることができました。ディルワース先生は男女共同参画に尽力されてきたご経験に加え植物科学研究者でもあり、日本植物学会でご講演いただくには最もふさわしいとして、依頼させていただきました。パネリストの方々にも世代、分野の多様性を考慮してお願いいたしました。皆様には打診後すぐにご快諾いただき、誠にありがとうございました。お陰さまで100名以上の方に視聴していただき、セミナー後アンケートの自由記載欄には例年に比べて多くの意見を頂戴し、反響の大きさを感じました(アンケート結果は別リンクで紹介しています)。また、当委員会の改名主旨の通り、男女共同参画を含む多様でタイムリーな学びの場を提供できていることも実感できました。UBについては今回を第1回とし、いずれ再びセミナーでとりあげたいと委員会では考えています。

今回のご講演に関しディルワース先生は謝金をご辞退され、その分を日本植物学会にご寄付下さいました。ご支援と温かい励ましに委員一同この場を借りて、改めて御礼申し上げます。また、学会運営委員の方々、大会委員の方々、そして寺島学会会長にも大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

ダイバーシティ推進委員会委員長：井川智子